

第 63 回入学式学長告辞

下関市立大学

学長 韓 昌完 (ハン チャンワン)

今こそ、あえて言いましょう。西の名門公立大学「下関市立大学」によろこそ！

大学を代表して、皆さんの入学を歓迎いたします。

本学の歴史は下関商業短期大学を原点に、経済学部単科大学としてこれまで 62 回の入学式を執り行ってきました。本日は、第 63 回目にして変革の第一歩を踏み出し、歴史に刻まれる入学式となります。ここにいる皆さんは、一人ひとりが記念すべき場面の主人公です。教職員一同この瞬間に立ち会えたことを誇りに思い、これから皆さんと新しい歴史を刻んでいくことをとても楽しみにしています。

また、この歴史的前進は、市長による政策の推進と支援、加えて議会の支持があったからこそ、迎えられることを忘れてはなりません。本日は歴史の立役者である、下関市長 前田 晋太郎 様ならびに下関市議会議長 香川 昌則 様とともにこの良き日を迎えられることとても嬉しく思います。

皆さんの世代は、高校 3 年間の青春が新型コロナに奪われ、勉強や部活に勤しむ時間も新しい出会いや人との繋がりも、思い描いたとおりとはいかなかったかもしれません。しかし、だからこそ、今年度国公立大学の中でもトップクラスの志願倍率を乗り越えて合格した皆さんに、心からの敬意とお祝いを申し上げます。

今年度本学は、学士課程に 541 名、うち留学生として 13 名、編入学生として 18 名を迎えました。学士課程は、経済学部 435 名、そして記念すべき第一期生となるデータサイエンス学部 88 名となります。また、大学院修士課程に 9 名、特別支援教育特別専攻科に 6 名をお迎えします。入学式に壇上から眺めるこの景色、ここに集う皆さんとの縁を実現するために、私たちは長い間準備をしてこの日を心待ちにしていました。万全な教育環境を備えた新しい校舎にプロムナード、勉学に交友に勤しむカフェテリア一本当に申し訳ないことに、この春には少し間に合いませんでしたが、きっと夏頃には皆さんが揚々と行き交い、活力に溢れた大学生活を謳歌する様子が見られることでしょう。

夏と言えば、昨年を思い返せばちょうど夏頃に「Chat GPT4」がオープン AI からリリースされ、その行く末に世界中が注目しました。人類の未来を変える可能性が高いという期待と懸念の声も各方面から上がり、特に多いのが AI の発達によって多くの職業が無くなるといった話題です。一方で、生命科学や医学の発達により人間の寿命はとてつもなく延びており、いずれ 200 歳や 300 歳まで生きるかもしれません。日本の平均寿命は約 84 歳ですが、すでに理論上は人生 120 年時代と言われています。84 歳までの 18 歳と 120 歳までの 18 歳、人生における意味合いをそれぞれ想像してみてください。日本は依然として高校卒業後にストレートで大学に入学、20 代前半の就職から 65 歳前後の退職まで働き、その後は年金生活となる既存の社会システムは変わっていません。皆さんが抱える漠然とした不安感は、寿命と社会システムとのギャップに寄るところが大きく影響していると考えられます。これまでのような将来設計を描くことが困難な時代において、大学で何を学び、何を体験しながら生きてくべきでしょうか。寿命が延びたととしても、大学の 4 年間は人生の輝かしい青春時代であることに変わりはありません。皆さんの大切な人生を預かる本学の教育・研究責任者として、3 つのアドバイスを贈りたいと思います。

1つ目は、学習法です。ドイツの心理学者ヘルマン・エビングハウスによれば、ほとんどの人間の忘却曲線には差が無いそうです。つまり、記憶力そのものに個人差はありません。では、優秀な成績を修める者とそうでない者で何が違うのでしょうか。それは、ひとえに「学習法」でありどれだけ復習したかによる反復学習により決まります。脳に忘却される前に学びを反復することで、忘れてはいけない大事な情報であると認識して長期的記憶に切り替わり、ようやく知識として定着します。4年間を通して学んだことは何だったかと後悔しないように、反復学習のチャンスを自分で作っていきましょう。

2つ目は、発明をも生み出す体系的思考です。「発明の父」として知られ生涯で多くの発明を残したアメリカの発明家トーマス・エジソンは、パターン化に並々ならぬこだわりを持っていたと言われていました。好奇心を発端にして一貫性のあるパターンを見つけることに没頭するうちに、次々と白熱電球やアルカリ蓄電池などの発明品が生まれました。このパターン化とは、動物の中で人間にだけ発達した思考であると言われてます。体系化メカニズムとも言われ、「なぜ火が消えたのか？」という疑問が浮かんだとします。彼は、「もしかして空気の量が関係しており、火のついた蝋燭にかぶせる箱の大きさを変えて、火が消える時間が延びるのであれば」などの仮説をつくって、そのパターンを検証することに長けていました。しかしながら、仮説の設定と検証という体系化には時間と多くのエネルギーを費やすもので、思考実験に留まらない彼の言動は周囲を巻き込み、おおよそ社会性という面においてその能力は発揮されなかったという逸話までがセットのようです。それでも、仮説を立てる、パターン化する、検証するといった体系化メカニズムによって、様々な発明や技術革新が文化水準を大きく引き上げることとなり人類の歴史は間違い無く前進しています。私たちが彼に学ぶ姿勢は、日々の学びに受け身になることなく体系的思考で仮説と検証を繰り返すことと、学びに打ち込んでさえいれば他の能力に劣ると思うことがあっても気にすることは無いということでしょうか。

最後は、思考に繋がる言語学習です。ぜひ、英語に限らず興味を持った言語の学習に積極的に取り組んで欲しいと思います。オーストリアの天才哲学者ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタイン曰く、人間の思考の限界は言葉の限界であるとされています。人間は言語化できること以外のことは思考できず、意味を理解できない言葉はただの音の連なりにしか聞こえません。反対に、言語を学ぶことは、その背景にある社会文化を丸ごと学ぶようなものであり、言語化できる言語が1つ増えるだけで一気に思考の限界が広がります。1+1が2ではなく、4、8、12・・・もしくはそれ以上にもなって、皆さんの思考を無限に広げましょう。また、他言語学習は自由を体験する過程でもあり、既存の自分から離れ、違う自分になっていく感覚を味わうことができます。

最後になりましたが、ここまで子どもたちを育て支えてくださった保護者の皆さまにお祝いとともにお礼を申し上げます。これからは、本学が大事に学生たちをお預かり致しますのでご安心ください。大学4年間の成長を温かく見守りつつ、時には背中を押していただければありがたいと思います。

入学までの道のりは人それぞれだと思いますが、本日から皆さんは同じスタートラインに立ちました。今年度開設のデータサイエンス学部につき、2025年度には看護学部も着々と準備しています。本学もさらなる発展を遂げていきますので、皆さんも人生の青春となる大学生活4年間で目標を決めて成し遂げていきましょう。

ご入学おめでとうございます。

ありがとうございました。